

# NEWSLETTER Vol.7



- 市内の小中学校施設は、建設から30年以上経たものが全体のほぼ9割を占め、その中でも古い校舎は建て替えの時期が近付いている状況にあります。
- 本市では、未来を担う子どもたちが、心豊かでたくましく自立した人間として育つよう、これからの学校施設のあり方について「各務原市学校建替基本方針策定委員会」を設立し、調査・審議を進めています。
- ここでは、委員会の会議内容を紹介していきます。

## 1. 第7回各務原市学校建替基本方針策定委員会を開催しました。

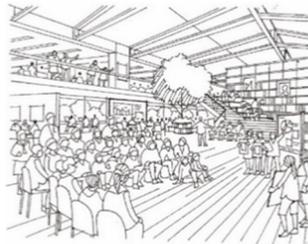
令和5年8月25日（金）午後1時30分から第7回各務原市学校建替基本方針策定委員会（以下、委員会といいます。）を各務原市産業文化センターで開催しました。

## 2. 各務原らしさと地域特性について、安心安全な教育環境について議論しました。

### ■各務原らしさと地域特性について

これからの学校施設では、児童生徒の主体的な学びや対話的な学びが得られる環境が求められています。また、この基本方針では、地域住民とのかかわりも含めた『つながり』の視点を大切にしています。

学校施設の整備にあたり、各務原市として重視する考え方や方向性について地域特性を含めた検討を行いました。



▲グループ発表や発表会をしているイメージ図



▲調べ物や意見交換、グループ発表をしているイメージ図

### ■安心安全な教育環境について

児童生徒が安心して安全に学校生活を送るためには、第一に防犯対策や事故防止に配慮する必要があります。

各学校の現状と他都市の対策事例を比較しながら、これからの各務原市の学校施設に必要な対策について検討を行いました。



▲桜丘中学校の校門



▲吹抜けに格子を設けた事例

## 3. 第7回委員会で出された主な意見を紹介します。

### ■各務原らしさと地域特性について

- ・「つながり」自体は重要なキーワードだが、現状よりも深まるという意味合いでの表現が望ましい。
- ・ラーニングセンターを中心に置き、学校専用ゾーンと地域開放ゾーンがそれぞれあるという構成については、同意できるが、小学校と中学校では施設の機能構成に違いがあると思う。
- ・学校は人と関わり、社会性を育む場であることが重要で、コロナ禍を経て、それが再確認されたと感じている。
- ・アンケートの結果でもあったように、他人を思いやる気持ちやコミュニケーション能力といった非認知能力についての視点が含まれていると良い。

### ■安心安全な教育環境について

- ・日常の安全と災害時の対応について考えていかなければならない。現場の先生の見意を取り入れる必要がある。
- ・地域開放とのバランスを考えて、将来的に技術的な解決策が採用できるような表現にできると良い。
- ・今の敷地内の動線では、天候や非常時、児童生徒の引き渡し非常に危険。出入口は目的に応じて分離しても良い。
- ・学校は災害時の避難場所になるので、新しく学校を整備する際には防災の視点も踏まえて考えていく必要がある。

※委員会の日程は、市のホームページに掲載します。2か月に1回の開催予定です。

【お問合せ先】各務原市役所 教育委員会事務局学校施設課 施設整備係

TEL : 058-383-1814 (直通) FAX : 058-389-0218

E-mail : gakkoshisetsu@city.kakamigahara.gifu.jp